

言葉の本棚

言葉にまつわるおすすめの本を毎月選りすぐって紹介します。

最相葉月

第13回

ことばの発達の謎を解く

今井むつみ

胎児はうるさくてたまらない。お母さんの心臓の音がドクンドクン聞こえてくる。羊水に包まれているのでくぐもってよく聞こえないけれど、お母さんがしゃべるリズムやイントネーションのパターンは感じとれる。

超音波検査に詳しい産婦人科医にそんな話を聞いたことがあるが、まさか、生まれたばかりの赤ちゃんが母語とそうでない言語を聞き分けているとは驚いた。慣れ親しんだ日本語が聞こえるとおしゃぶりの吸い方が強くなり、外国語だと弱々しくなるそうだ。

認知科学を専門とする今井むつみ・慶應義塾大教授の『ことばの発達の謎を解く』はそんな驚きの能力をもつ赤ちゃんが単語も文法も知らず、辞書をひくわけでもないのに、どうやって母語を使いこなせるようになるのか、様々な実験結果をもとにひもといていく。

子どもが言葉を獲得する順序

誤解されがちだが、そもそも人間は意味を知っているから言葉を使えるわけではない。たとえばアヒルのおもちゃがあるとして、アヒルの意味を理解してアヒルと呼ぶわけではない。風呂に浮かんでいても、おもちゃ箱に

入っていても、池に浮かんでいても、アヒルはアヒル。「ことばが機能するためには、ことばを状況から（ある程度）切り離して使えること」、すなわち状況に依存しないことが大事で、赤ちゃんはそれを自分で発見していく。

犬の絵を見て「わんわん」という言葉を覚えた赤ちゃんは、しばらくは何を見ても「わんわん」というが、やがて犬だけを「わんわん」というようになる。この過程で起きているのは「カテゴリー」化だ。著者の実験から、2歳児はまず「形の似ているもの」というカテゴリーで言葉を知ることがわかった。

つまり、普通名詞から知るといふこと。個別の名前はその後にくる。固有名詞を先に覚えないのは細かい違いがわからないからではない。自分に関係のない個別の名前より、いろいろな対象に使えるカテゴリーの名前のほうが役に立つと知っているからだといふ。

2歳から2歳半は「語彙爆発」といって日に10個も新しい言葉を覚えるといわれるが、そのほとんどが名詞だ。次々覚えて使ううちに言葉の規則性や仕組みを発見して語彙を増やす。やがて物の名前とは明らかに違う言葉、動きにも名前（動詞）があると気づく。

3歳児は動作はわかるが、語彙が少ないの

で正確には使えない。たとえば、「のむ」は飲料以外に薬やつばにも使うことはまだわからない。状況に応じて使い分けるのは高度な技で、子どもは試行錯誤を繰り返す。ある3歳児は「ケル」を知らず、「足をナゲル」といった。ケル動作とナゲル動作は異なるが、何かを上方に移動させるという意味では同じ。たんなる間違いではないのは明らかだ。

形容詞はさらにハードルが高い。背が高いの反対は背が低い。値段が高いの反対は値段が安い。ある子どもが「血圧がヤスイ」といったそうだが、階段を上る途中で飛び出した踊り場の奇跡のような表現ではないか。

前後左右を表す言葉も発達段階で変化し、文化によっても違う。赤ちゃんは3くらいまでの小さい量は認識できるが、それ以上は大まかになるという。これはハトやサルも同じ。と、ここで思い出すのは連載第2回で紹介したアマゾンの少数民族ピダハんだ。彼らは数の概念や左右、色の名前ももたない。小さい量は正確に認識するが、4以上になるとわからない。生物学的には、個体発生の初期に現れる脳のIPS（頭頂間溝）という部位が数の処理を行うこと、小さい量は正しく認識でき

るが、それ以上はざっくり認識する部位であることがわかっている。3までは動物も赤ちゃんにも共通するが、それ以上の識別や四則計算になると数詞が必要になる。つまり数を表す言葉を発見して初めて、「数という抽象概念」を育てていけるのだ。

言語獲得に必要なのはシステムの構築

本書が興味深いのは、人間が言葉を獲得し、何度でも参照可能な「心的辞書」を作る過程を〈システム〉と表現していること。子どもは発達過程で似ているものや異なるものを発見し、自分の辞書に言葉がなければ自分で言葉を作り、人に注意されなくても自分で間違いを修正しながら語彙を増やしていく。日々失敗を繰り返しながらシステムをアップデートしているのが、母語を使いこなすための「心的辞書」なのである。

となれば外国語学習に必要なことも見えてくる。やみくもに単語を覚えても意味はない。大事なものは、システムを構築することだ。

ことばの発達の謎を解く
今井むつみ

・今回紹介した本・

今井むつみ
『ことばの発達の謎を解く』
ちくまプリマー新書

最相葉月 (さいしょう はづき)

ノンフィクションライター。科学技術と人間の関係性、精神医療などを中心に取材活動を行う。著書に、『絶対音感』『セラピスト』『星新一』（新潮文庫）、『胎児のはなし』『辛口サイショーの人生案内DX』（ミシマ社）、『調べてみよう、書いてみよう』（講談社）など多数。『星新一』にて大佛次郎賞、講談社ノンフィクション賞などを受賞。『セラピスト』は台湾と韓国でも翻訳刊行、2021年に中国での刊行も決定。

講師
大西泰斗



大西泰斗の

英会話★ 定番レシピ

話すための
7つの文法レシピ

今月の
テーマ

基本文型。
指定ルール

連載

★ ★
最相葉月の言葉の本棚
★
はしやの英語でレシピ



Eテレ

[放送] 月曜～木曜

[再放送] 月曜～木曜

午前 11:10-11:20

午後 11:20-11:30

NHKの番組を
「いつでも、どこでも！」
NHK+
はじめてみませんか?

LEVEL
C2
C1
B2
B1
A2
A1
A0